

# 社長の ハツピーリタイヤを応援

## ④ 後継者に気持ち良くバトンを渡す方法

愛知県西尾市吉良町でハウスセンター「ミズトリ」を経営する水鳥勝義社長は、昭和元年創業の会社を引継ぎ経営してきたが、後継者にバトンを渡すべく準備を着々と進めています。商店街の店舗が衰退していくなかで、事業の範囲を拡大し営々と発展し続けて行くことは至難の技です。企業の寿命は三〇年と言われ、中小企業の二社に一家は存続の危機にあるご時世、後継者にバトンを渡せる企業は恵まれています。

業を継ぎ、必死の思いで切り盛りをしてきた。あれから五十八年、半世紀以上を経営に邁進してきた。創業当時は鍋、釜などの生活用品からはじまり、大工さんや建築関係の職人さんが仕事で使う金物類に品揃えを特化し、そして今では西尾市一円においてハウスメーカー、リフォーム会社として広く知られるところとなりました。

でサッシを入れたと言われたので、水鳥金物で販売を始めてくれませんか。木製引戸からサッシに変わる節目の頃で、ニーズに即対応した水鳥社長の選択が勝ち残りの決め手となったのです。しばらくしてビル、事業所用サッシも扱うようになり、建材事業、リフォーム事業へ広がっていききました。

もいいし頼もしいですと安心のまなざしの水鳥社長。ただ、借入などをきれいに後継者にバトンを渡したいと時期を見計らっている段階。水鳥社長の趣味は、三度のメシよりも好きな海釣りですが、小型船舶の免許を取って三河湾や伊勢湾に繰り出します。社長を退任してからも退屈することはない。会社の末路は「承継、売却、廃業」の他にはない、後継者にバトンを渡すことを選択できる承継は幸せと言えるでしょう。



廣野 嘉代子

HRコンサルティング代表取締役。日本M&Aアドバイザー協会認定アドバイザーとして中小企業経営者をサポート。

<http://www.hrconsult.net/>

父親が四十七歳の若さで亡くなり当時十八歳だった社長は家

注したのですが、施主様の要望

に頑張っています。人柄もとて